

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：62608

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2014

課題番号：25770100

研究課題名(和文)後土御門天皇時代における禁裏文芸の総合的研究

研究課題名(英文)Comprehensive study on courtly literature in the era of Emperor Gotsuchimikado

研究代表者

小山 順子 (Koyama, Junko)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：20454796

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、応仁の乱(1467-1477)の後の、後土御門天皇時代(在位：1464～1500)の禁裏における文芸について、以下の3点を明らかにした。

(1)後土御門天皇の文芸御会において、天皇が文芸を遊戯として楽しむのみならず、文学性を高めようという意図を持っていたこと。(2)後土御門天皇が新機軸の文学的試みをする際には、近臣たちが参加した。(3)室町時代後期の女性歌人の具体的様相について。

研究成果の概要(英文)：This study has revealed the following three-fold argument about literature which had made in the imperial court after the Onin War (1467-1477), the era of Emperor Gotsuchimikado (rein:1464-1500).

(1) When Emperor Gotsuchimikado held a literary gatherings, he had the aim to raise literary value of works, not only to enjoy sophisticated games. (2) When Emperor Gotsuchimikado challenged a new idea for literature, he gathered close courtiers. (3) About concretely aspects of women poet in the last part of the Muromachi period.

研究分野：日本中世韻文学

キーワード：後土御門天皇 戦国時代 禁裏文芸 和歌 連歌 和漢聯句 女性文学

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 文学分野からの先行研究

本研究が対象とする後土御門天皇時代(在位:1464-1500)は、文学史上で、堂上連歌の最盛期と位置づけられている。それゆえ、連歌関連では当該時代に着目した研究も散見する。和歌については、早く井上宗雄『中世歌壇史の研究 室町前期』(風間書房、1961)が歌壇の動向とともに伝存する作品についてもまとめている。

### (2) 歴史分野からの先行研究

ジャンルを越えて諸文芸を横断し、当該時代の禁裏文芸を捉えようとした研究は、文学研究ではなく、歴史研究から進められてきた。奥野高廣『戦国時代の宮廷生活』(続群書類従刊行会、2004)が上梓され、さらに近年、小森崇弘『戦国期禁裏と公家社会の文化史 - 後土御門天皇期を中心に』(小森崇弘著書刊行会、2010)が刊行されている。特に小森氏著書は、和歌・連歌・和漢聯句の諸文芸を、当時の公家の日記を駆使し、実態を明らかにする研究である。

このように、全般的な把握を歴史研究者によって試みられているのが、現在の研究状況である。それは、歴史研究の見地からも、後土御門天皇時代が、宮廷・五山・幕府という三つの輪が相互に関わり合った、政治的・文芸的に注目すべき時代だからである。

### (3) 課題

歴史研究からのアプローチ方法と成果を踏まえつつ、今度は文学研究の観点から、後土御門天皇禁裏文芸に関する研究を進展させてゆくことが、現在求められている。

中世後期から近世にかけての禁裏文芸は、数量は膨大に残されているとはいえ、質的な面では「月並み」すなわち平凡で見るところが少ないという否定的評価が下されがちである。近年ではそうした一括りの見方に修正の必要を提示する研究も出されており、代表者がこれまで発表してきた一連の研究でも、新機軸を打ち出す禁裏文芸の方向性が確認できている(参照:小山「室町時代の句題和歌 永正三年五月四日杜甫句題五十首について」2005.11、同「後柏原天皇の三代集 仮名句題について」2011.11、同「和漢聯句 - 後土御門天皇の内々御会をめぐって - 」2012.7 など)。こうした視点から、後土御門天皇禁裏における文芸が持つ特徴を個々の事象に基づきつつ明らかにした上で、包括的に考察してゆく。

## 2. 研究の目的

本研究は、15世紀後半の応仁の乱後、政治的にも経済的にも疲弊した宮廷において、文学の隆盛が興ったことに着目し、後土御門天皇時代の禁裏における文芸の全体像を捉えようとするものである。

後土御門天皇時代の禁裏文芸は、個々に原

資料の懐紙や写本が伝わってはいるが、それらを総括して俯瞰する研究はいまだなされていない。そこで、和歌・連歌・和漢聯句・連句・詩歌会の作品収集によって、同時代の禁裏文芸を考察する基礎資料を整えた。また、作品内容の検討を通じて、「月並み」と否定的評価の下されがちな禁裏文芸の意義や文学意識について考察する足がかりを作ることがを目的とする。

## 3. 研究の方法

いずれも、既に公開されている資料を用いながら、未刊資料を収集し、内容を検討した。未刊資料は、所蔵機関での閲覧調査だけではなく、可能なものについては、マイクロフィルムからの複写もしくは写真撮影によって収集した。

### 《和歌》

御会和歌については既に、室町時代から近世までの禁裏月次和歌を集成した『公宴続歌』(和泉書院、2000)に多くの作品の翻刻が収められている。この翻刻を参照しながら、その底本として用いられている宮内庁書陵部蔵『公宴続歌』と、京都府立総合資料館蔵『内裏御会』・龍谷大学大宮図書館蔵『内裏御会』を基礎資料として調査を進めた。但し、これに含まれない作品については、国立歴史民俗博物館蔵高松宮旧蔵禁裏本および宮内庁書陵部所蔵の資料をマイクロフィルムからの紙焼き複写もしくは写真撮影によって収集した。

### 《連歌》

当時は地下連歌師たちが活躍した時代であり、地下連歌師の催した連歌作品が多くのごされており、また公家が各々独自に興行した連歌会もある。しかしそれらは除き、禁裏連歌会の作品のみに絞って調査・収集した。

### 《和漢聯句》

和漢聯句作品の多くは、京都大学国文学研究室・中国文学研究室編『室町前期和漢聯句作品集』(臨川書店、2008)によって、作品収集・本文公刊がなされている。但し、完本ではなく断片的にしか本文(懐紙)が残されておらず、未収である作品もある。後土御門天皇禁裏御会の和漢聯句のほとんどは、主に宮内庁書陵部に所蔵されており、それらは原懐紙と認定されているものである。未収作品は宮内庁書陵部で調査し、紙焼き複製を収集した。

上記の形で収集した資料を調査するにあたり、作品を、

参加人員

成立事情

作品(御会)の性質・特質

の3点から分析した。作品の本文を検討した上で、周辺資料として『実隆公記』(三条西

実隆)『十輪院内府記』(中院通秀)『御湯殿の上の日記』などの史料と照合した。

#### 4. 研究成果

本研究の成果として、明らかにしたことは大きく3点、(1)後土御門天皇禁裏御会の文芸性、(2)禁裏御会の中核としての内々番衆、(3)中世後期の女性歌人の様相、がある。

##### (1) 後土御門天皇禁裏御会の文芸性

後土御門天皇禁裏に限らず、室町時代後期の禁裏文芸については、「月並み」という否定的評価が与えられる。頻りに御会が開かれ、数量の上では圧倒的であっても、その質的・文学的価値は乏しいものであると位置づけられてきた。特に、連歌・和漢聯句といった当座で開かれ、複数のメンバーによって完成する座の文芸は、ゲームとして楽しまれていたこともあり、文学性を取り上げられることはほとんどない。

しかし、宮内庁書陵部に残された後土御門天皇禁裏における和漢聯句御会の原懐紙(もしくは清書懐紙)を調査し、公家日記と照合して本文を検討した結果、後土御門天皇が清書懐紙に推敲を施していることが判明した。このことは、天皇が和漢聯句をゲームとして楽しむのみならず、文学としての完成度を高めようとしていたことを物語る。つまり、従来考えられてきた以上に、禁裏御会で生み出される作品に、天皇が完成度や文学性を求めていることが明らかになった。

この指摘は、後土御門天皇の禁裏文芸に対する考え、姿勢を考察する上で重要であり、禁裏文芸という文学の在り方を追究する上でも新たな問題を投げかけるものである。

##### (2) 禁裏御会の中核としての内々番衆

後土御門期の禁裏文芸の中核が、天皇の近臣である小番衆によって形成されていることは、既に歴史学から指摘されてきたことではあった。本研究では文学的観点から、後土御門天皇禁裏の催しの中で、新機軸を打ち出していると思える作品が、小番衆を出詠歌人・連衆とする内々の御会から生み出されていることを明らかにした。

具体的に取り上げたのは、和漢千句という催しである。千句連歌に倣い、数日を掛けて千句を巻くという催しは、後土御門天皇禁裏を嚆矢とする。後土御門天皇が、こうした新たな試みを盛り込んだ催しをたびたび企画していることを指摘しつつ、新たな試みに挑戦する際には、小番衆(内裏宿直をつとめる中級公家)と禅僧が連衆として加わっていること、高位の公家はそうした場から排除されがちであったことを示した。

これまで、本研究のように、構成員と催しの性質を関連させて中世禁裏御会の文芸を考察したものはほとんど無い。しかし、一様に「禁裏御会」「禁裏文芸」と一括りにさ

れがちな作品群を、このように構成員から腑分けしてゆくことで、それぞれの作品の特質も明確になってゆくことを改めて示すことができた。今後、同様の分析は、禁裏文芸の性質・特質を考える上で重要となると考えられる。

##### (3) 中世後期の女性歌人の様相

後土御門天皇期の和歌を考察する上で、当該時代に活動した女性歌人について明らかにした。職名のみが記載される女性歌人を人物比定し、それぞれの人物の活動を整理した上で、当時の女性歌人たちの具体相を示した。

これは、本研究の目的である、後土御門天皇時代の禁裏文芸に関する成果としてのみならず、日本女性文学史を考える上でも非常に重要な研究成果であった。日本女性文学史において、中世後期から近世初期(14世紀半ば~17世紀末)の250年間は、女性作者のきわめてとぼしい時代で、活動がほとんど知られない時代である。この時代の女性作者について、具体的に人物や活動を明らかにし、さらに女性歌人衰退の様相を示したことは、文学史および女性史の上からも大きな成果であった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

小山順子「室町時代の女性歌人たち」『中世文学』、査読有、第60号、2015年6月(掲載決定)、83-96頁

小山順子「後土御門天皇の和漢聯句御会懐紙考」『国語国文』、査読有、第83巻第12号、2014年12月、24-42頁

小山順子「『文明十六年二月和漢千句』考付、第五百韻・三つ物翻刻」『京都大学国文学論叢』、査読有、第32号、2014年9月、23-38頁

〔学会発表〕(計2件)

小山順子「室町時代の女流歌人たち」平成26年度中世文学会秋季大会、2014年10月5日、金沢市文化センター

小山順子「室町時代後期和歌における『伊勢物語』撰取と注釈 三条西実隆と後柏原天皇をめぐる」第59回和歌文学会大会、2013年10月13日、関西大学

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

小山 順子 (KOYAMA, Junko)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：20454796

##### (2) 研究分担者

なし

(3)連携研究者  
なし